

横並び型アクションリサーチ（私はこう思うけど、あなたは？） 「母親発！ 今、子育てしている私の気持ち」アンケート

このアンケートは、子育て中の母親たちの実感を質問にしたものです。子育てについて、いろいろな人に回答してもらうことで、子育て観や生き方観を共に探していくことを目的としています。

<ご記入の前にお読みください>

1. 調査対象 16歳以上の男女 3000人程度

2. 調査期間 2008年8月～2009年3月（アンケート配布・回収2008年10月～11月）

3. 調査内容

A) あなたのことを教えてください

B) 子どもイメージについて

C) 妊娠・出産について

D) 子育て・生き方について

E) 子育てエピソードについて

(1) 子ども同士のトラブル (2) 地域の子どもの関わり

F) 子育て支援について

G) 自由記述

4. 記入にあたって

- 黒ボールペンや鉛筆などで記入してください。
- 自由記述以外は、 や番号でお答えください。
- 「子ども」や「夫(妻)・パートナー」のいない方もお答えください。質問によっては、いるものと想定してお答えください。また、その立場の人にしか答えられないような質問には「もし自分が だったら」と考えてお答えください。
- 「結婚」「子ども」「大人」「親」などは、特に断りのない限り、定義しておりません。回答者ご自身の考えで、お答えください。

本調査の回答は無記名方式とし、ご協力いただく皆様のプライバシー等には十分配慮いたします。また、調査結果は個人のデータとして取り扱いせず、あくまで集計データとしてのみ扱います。

■ 「横並び型アクションリサーチ」とは

アンケート方式の社会調査ですが、調査結果とともに、質問を作ること自体が重要な活動です。これまでアンケートの対象者とされていた人たちが、普段の生活の中で思っていることをそのまま言葉にし、「私はこう思うけど、あなたは？」と、横並びの関係で対話していく中から質問を作成します。更にその結果をもとに対話を重ねる中で、これからの子育てやそれぞれの生き方を考え支えあっていくためのアンケート&ネットワーク活動です。

- 本調査の結果は、2009年3月15日の催し（会場：埼玉県県民活動総合センター）で発表する予定です。

問合せ先：特定非営利活動法人 彩の子ネットワーク

〒362-0017 埼玉県上尾市二ツ宮1156-3

TEL：048-770-5272 FAX：048-770-5270 E-Mail：office@sainoko.net HP：www.sainoko.net

A) あなたのことを教えてください

当てはまる番号に、または枠内にご記入ください。

問1. あなたの年齢は？

1. 19歳以下 2. 20～24歳 3. 25～29歳 4. 30～34歳 5. 35～39歳 6. 40～44歳
7. 45～49歳 8. 50～54歳 9. 55～59歳 10. 60～64歳 11. 65歳以上

問2. あなたの性別は？ 1. 男 2. 女

問3. あなたの職業は？

1. 高校生 2. 専門学校生 3. 短期大学生 4. 大学生 5. 大学院生 6. 予備校生
7. 会社員・公務員 8. パート・アルバイト・契約社員 9. 自営業 10. 専業主婦(夫)
11. 無職 12. その他()

問4. ボランティア活動・地域活動に携わっていますか？ 1. はい 2. いいえ

問5. 家族構成をお聞きます。

1. ひとり暮らし 2. 夫婦のみ 3. 母親とその子ども 4. 父親とその子ども
5. 夫婦とその子ども(核家族) 6. 三世同居 7. その他()

問6. 結婚していますか？

1. 未婚 2. 既婚(初婚) 3. 既婚(再婚) 4. 離別・死別

問7. 子どもはいますか？

1. いる (年齢、性別をご記入ください)
(歳 男・女)(歳 男・女)(歳 男・女)
2. いない

問8. 孫はいますか？

1. いる (年齢、性別をご記入ください)
(歳 男・女)(歳 男・女)(歳 男・女)
2. いない

問9. 現在住んでいる地域は？

_____都道府県_____市区町村



B) 子どもイメージについて

あなたの子どもに対するイメージとして、あてはまる言葉すべてに を付けてください。

ここでの「子ども」はおおよそ0歳～6歳と考えてください。

- | | | | | |
|-----------|------------|-----------|-------------|-----------|
| 1. よく泣く | 2. 面白い | 3. 自己中心的 | 4. しつこい | 5. かわいい |
| 6. わがまま | 7. 残酷 | 8. 好奇心 | 9. 生意気 | 10. 邪魔 |
| 11. やわらかい | 12. 危なっかしい | 13. 力いっぱい | 14. 希望 | 15. 素直 |
| 16. 半人前 | 17. 手がかかる | 18. 元気 | 19. 自分自身が好き | 20. 汚い |
| 21. 飽きっぽい | 22. 待たなし | 23. 後継ぎ | 24. 投資 | 25. いやされる |

C) 妊娠・出産について

各質問について、1. 大いにそう思う 2. まあそう思う 3. あまりそう思わない 4. まったくそう思わない、のうち、あなたの考えに近いと思う番号に をつけてください。

妊娠・出産の経験のない方、男性の方は「もし自分が、妊娠・出産するなら」と考えてお答えください。

	大いに そう思う	まあそう 思う	あまりそ う思わ ない	まったく そう思わ ない	
1. 薬(陣痛促進剤など)を使うか使わないかは、自分の意志で決めたい	1	2	3	4	1
2. リスクが予想されても、自分が痛くないこと(無痛分娩)が優先される	1	2	3	4	2
3. 自然分娩できなければ、スタートから挫折した気持ちになる	1	2	3	4	3
4. 私の出産は「産んだ」というより、「産ませてもらった」感じがする	1	2	3	4	4
5. おなか大きい今だから出来るファッションを楽しみたい	1	2	3	4	5
6. 妊娠中は無事出産することがゴールであり、それから始まる育児についてあまり考えていなかった	1	2	3	4	6
7. おなかが大きくなるのが、恥ずかしくて隠したい気持ちになる	1	2	3	4	7
8. 陣痛に耐えてこそ、母親になれる	1	2	3	4	8
9. 避妊を話し合える関係があつてこそ、セックスを楽しめる	1	2	3	4	9
10. 子どもに障害があつたら自分の責任のように感じてしまう	1	2	3	4	10
11. 帝王切開であっても、自らの意思が尊重されたものであれば、自分のお産だと思える	1	2	3	4	11
12. 妊娠中、胎児に障害があると分かっても生みたい	1	2	3	4	12
13. 好きな相手から求められてもセックスしたくない時はノーと言える	1	2	3	4	13
14. 出産するところは、万が一に備えて、総合病院など医療設備が整っているところがいい	1	2	3	4	14
15. 自分が最もリラックスできる体位や場所での出産したい	1	2	3	4	15
16. お産が始まって初めて、産むのは自分なのだ気がつく	1	2	3	4	16
17. 自分だけが頑張ったのではなく、子どもと一緒に頑張つて生まれたのだ	1	2	3	4	17
18. 男性は妻(パートナー)の出産より、仕事の方が優先だ	1	2	3	4	18
19. 女性は誰でも、子どもを産めば自然と母親になれる	1	2	3	4	19
20. 子どもを産んでいない人には、子育ての大変さはわからない	1	2	3	4	20
21. 五体満足な子が生まれればそれでいい	1	2	3	4	21
22. おなかの子は気づかれ大切にされていたが、私自身は大切にされているようには思えなかった	1	2	3	4	22
23. 妊娠・出産に費用がかかることで、子どもを産むことを躊躇する(したことがある)	1	2	3	4	23

D) 子育て・生き方について

各質問について、1. 大いにそう思う 2. まあそう思う 3. あまりそう思わない 4. まったくそう思わない、のうち、あなたの考えに近いと思う番号に をつけてください。

その立場の人にしか答えられないような質問には「もし自分が だったら」と考えてお答えください。

	大いに そう思う	まあそ う思う	あまりそ う思わ ない	まった く そう思 わない	
1. 「妻(夫)だから」「母親(父親)だから」という条件つきでなく、その人そのものを大切にしたい	1	2	3	4	1
2. ボランティア活動は、自己表現である	1	2	3	4	2
3. どんなに親が見ていたとしても、子どもの好奇心は、ときに死と隣り合わせのものだ	1	2	3	4	3
4. 一人でゆっくり食事をして、トイレに入って、お風呂に入りたい	1	2	3	4	4
5. どんなに仲の良い友だちでも、子どもを預かることはしたくない	1	2	3	4	5
6. 子どもが泣くのは、自分に原因があるような気がしてつらくなる	1	2	3	4	6
7. 利益や損得で判断しない人との関わりが、「みんなで子育て」の社会になる	1	2	3	4	7
8. 子育て中は、同じような価値観の友だちとだけつきあいたい	1	2	3	4	8
9. 「あれダメ、これダメ」って叱っていることに疲れる	1	2	3	4	9
10. 子育ては私事であり、できるだけ親や家族で担うべきだ	1	2	3	4	10
11. 子どもにとって、リズムや歌はカラダの一部だ	1	2	3	4	11
12. 「イヤだ、自分でやる」と子どもが言うときは、自分の世界を広げていくときだ	1	2	3	4	12
13. 子どもがいたら、子どもを最優先にして、自分のやりたいことは我慢すべき	1	2	3	4	13
14. 赤ちゃんは、泣くことを楽しんでいることがある	1	2	3	4	14
15. 仕事をしている時は、子どもや家族から解放される貴重な時間だ	1	2	3	4	15
16. 夫(パートナー)や周りから、「いい母親」であると思われたい	1	2	3	4	16
17. 自分の人生を大切に生きようと思ったら、離婚も時には選択肢のひとつになる	1	2	3	4	17
18. 子どもは、親である自分を嫌いにならない、裏切らない、許してくれる	1	2	3	4	18
19. 子どもが育つのに応じて、つきあう自分の友だちも変わっていったいい	1	2	3	4	19
20. 世の中に、子どもがいなくちゃ笑えない	1	2	3	4	20
21. 子どもがいるからこそ、やりたいこと(活動)がある	1	2	3	4	21
22. 赤ちゃんが泣いたら、泣き止ませなければいけない	1	2	3	4	22
23. 子どもに社会のルールをしつけるには、ときに体罰も必要である	1	2	3	4	23
24. 子育て中心の生活から、仕事を始めることで、新たな孤立や不安が生じる	1	2	3	4	24
25. それを“障害”としているのは、その人ではなく、周囲や社会の側である	1	2	3	4	25
26. 父親は、子育てに関わりたいたいと思っても、どうしていいかわからないものだ	1	2	3	4	26
27. 母親なら子どものことをなんでもわかっているはずだ	1	2	3	4	27
28. 言葉で言って分からない相手には、叩いてでも教えた方が良く思う	1	2	3	4	28
29. 家族に限らず、子どもの成長を共に喜び、見守り、私の背中を押してくれる存在は、私が私らしく生きていくうえで必要不可欠だ	1	2	3	4	29
30. 赤ちゃんは言葉を話せないので、対話できる相手とは思えない	1	2	3	4	30

	大いに そう思う	まあそ う思う	あまりそ う思わ ない	まったく そう思わ ない	
31. 夫(パートナー)がいることで、“手”が増えるはずなのに、かえって手がかかってしまう	1	2	3	4	31
32. 子どもが言うことを聞かないと、自分に反抗しているようでイラつく	1	2	3	4	32
33. 赤ちゃんは、みつめたり微笑みかけたり泣いたりして「誰か一緒に生きてよ」と人に働きかけている	1	2	3	4	33
34. 男性中心の社会にあっては、ひとりの母親の涙は、社会的な発言の第一歩である	1	2	3	4	34
35. 妻が専業主婦でも、夫は育児休暇を取るべきだ	1	2	3	4	35
36. 自分よりリッチな生活をしている人を自分の家に招くのは恥ずかしい気がする	1	2	3	4	36
37. 子どもの夜泣きやぐずりには、父親はつきあいきれないと思う	1	2	3	4	37
38. 自分と違う角度から子どもを見ている人の話は、子どもとの関係に新しい発見を与えてくれる	1	2	3	4	38
39. パートナー(夫・妻)とともに生きるのなら、ともに子育てをしていく覚悟が必要だ	1	2	3	4	39
40. 泣ける男はステキだ	1	2	3	4	40
41. ママになったら「ママ友」を作らないといけない気がする(した)	1	2	3	4	41
42. 子育てが辛いときに支えになるのは、原因究明してくれる専門家ではなく「ひとりじゃない」と思わせてくれる人の存在だ	1	2	3	4	42
43. 叩いてもあとで抱きしめれば、子どもに愛情は伝わる	1	2	3	4	43
44. 自分と子どものファッションをキメて、出かけた	1	2	3	4	44
45. 子育ての苦勞を共感できるママ友がいないとつらい	1	2	3	4	45
46. よその子どもと比べることで、安心したり悩んだりする	1	2	3	4	46
47. 今の育児は、便利なグッズや保育サービスがあるので、上手に選んで楽にやりたい	1	2	3	4	47
48. 自分のしていることが虐待に当てはまるかどうか気になる	1	2	3	4	48
49. パートナー(夫・妻)は、自分の本当に大変なときをわかっていない	1	2	3	4	49
50. 子育てをしているときの私は、仮の姿で本来の自分ではない気がする	1	2	3	4	50
51. 自らが変わることで、周囲を変えていくこと、どちらにもチャレンジしてみようと思うほどのことを見つけたい	1	2	3	4	51
52. 自分(母親・父親)がいなければ、子どもは生きていけない	1	2	3	4	52
53. パートナー(夫・妻)とは、波風たたないように暮らす方がいい	1	2	3	4	53
54. 結婚制度にこだわらず、一緒に住んだり子どもをもったりする生き方はよいと思う	1	2	3	4	54
55. 虐待される側に原因や理由はなく、それを「原因」としているのは虐待する側である	1	2	3	4	55
56. 「母親らしく」「妻らしく」から開放され自分らしく生きられたら、子どもと向き合える	1	2	3	4	56
57. 子どもに「早く、しっかり、頑張って」と言うのは、この社会の中で生きる力を育てる	1	2	3	4	57
58. つらいときは、赤ちゃんと一緒に泣いてもいい	1	2	3	4	58
59. ひとり親家庭は、ひとりの人として自立できる可能性をもった家族の形のひとつである	1	2	3	4	59
60. ボランティアは、生活に必要な社会資源を自らつくることで、新しい仕事を創造していく可能性がある	1	2	3	4	60

E) 子育てエピソードについて

エピソードを読んでから、それぞれの質問に、1. 大いにそう思う 2. まあそう思う 3. あまりそう思わない 4. まったくそう思わない、のうち、あなたの考えに近いと思う番号に をつけてください。

その立場の人にしか答えられないような質問には「もし自分が だったら」と考えてお答えください。

【エピソード1 子ども同士のトラブル】

公園の砂場でKちゃん(2歳)が、シャベルで穴を掘っていると、Mちゃん(2歳)が近づいてきて、シャベルを取ってしまいました。Kちゃんは「ダメー!!」と言って、Mちゃんとシャベルの取り合いになりました。

Kちゃんのお母さんが「ダメ!」じゃないでしょ、今まで使ってたんだから、貸してあげなさいよ!」と子どもを引き離そうとした時、KちゃんはMちゃんの腕に噛みつきました。Mちゃんは大声で泣き出し、Kちゃんのお母さんは「噛んじゃだめでしょ!」と言いました。Kちゃんは、大泣きしているMちゃんを見て立ち尽くしています。

泣き声に気付き、Mちゃんのお母さんがやってきました。Kちゃんのお母さんは、「ごめんね、シャベルの取り合いになって、うちの子がMちゃんを噛んじゃったの」「ごめんなさいしなさい」と言ってKちゃんの頭を押さえて謝らせました。Kちゃんの表情は硬いままでした。

Mちゃんのお母さんは「いいよ、いいよ、大丈夫、気にしないで」と言って、Mちゃんを連れて立ち去りました。

母親たちの気持ちについて

	大いに そう思う	まあそ う思う	あまりそ う思わ ない	まったく そう思 わ ない	
1. しつけができていない親と見られるのがいやで、自分の子をきつく叱ってしまうことがある	1	2	3	4	1
2. 我が子には、友だちと仲良くできる子どもになってほしい	1	2	3	4	2
3. 乱暴な子と遊ばせると、自分の子どもに悪い影響がある	1	2	3	4	3
4. 「気にしないで」や「大丈夫」という言葉で自分や子どもの気持ちを抑えないと、他のお母さんとうまくやっていられない	1	2	3	4	4
5. ルールを守れないのは、親のしつけがなっていないからだ	1	2	3	4	5
6. 自分の子であるかどうかに関わらず、その子の気持ちを大切に付き合いたい	1	2	3	4	6
7. 子ども同士がトラブルを起こしたとき、相手の親とも相談できるといい	1	2	3	4	7
8. 自分の子どもは、他人に迷惑をかけない子であって欲しい	1	2	3	4	8
9. 子どもの態度や言動を、大人の都合で抑えることは、その子がその子らしく生きることを制限する事だ	1	2	3	4	9

子どもたちについて

10. 子どもの困った行動は、その子が自分で自分の世界を広げようとする姿だ	1	2	3	4	10
11. 聞きわけがなかったり、乱暴をするような子どもは、学校など集団生活に進んだ時に問題を起こす	1	2	3	4	11
12. 「噛む」「たたく」等の行為も、その子にとっては、その時の気持ちの現し方のひとつである	1	2	3	4	12
13. “くやしい”“かなしい”というような感情を押し殺さず、表に出せることは大切だ	1	2	3	4	13
14. 他の子に乱暴するような子どもは、親の愛情が不足している	1	2	3	4	14
15. 乳幼児にみられる「噛む」「たたく」等の行為は、矯正しなければならない	1	2	3	4	15
16. 行動の善し悪しを問う前に、まずその子が「どうしたかったのか」を大事にしたい	1	2	3	4	16

【エピソード2 地域の子どもの関わり】

Aさんには、小学校一年生の子どもがいる。子どもの同級生のSちゃんは、学校がお休みの日は朝早くから暗くなるまで近所を歩きまわっている。ある知人の話では、「Sちゃんが生まれてすぐ両親が離婚して、お母さんと二人で暮らしているみたい。小さい時から放っとかれて、いつも近所をうろろしているし、最近は夜遅くなくても公園で一人で遊んでいるのよ。お母さんはSちゃんに小銭を持たせて、ごはんも作っていないみたい。そんなうちだから正直つきあいたくない」とのことだ。

SちゃんはAさんの家にもフラッと遊びに来たことがある。その日は、お昼近かったので、「Sちゃんお昼一緒に食べる？」と聞くと、Sちゃんは「もう食べた」と言って帰って行った。Aさんは、たまにSちゃんに学校で会えば話をいろいろ試している。「また、遊びにおいで」と声をかけているのだけれど、実際はAさんにも仕事があるので家にいないことの方が多い。

(実話をもとに作成したフィクションです)

	大いに そう思う	まあそ う思う	あまりそ う思わ ない	まったく そう思 わない	
Sちゃん親子について					
1. 子どもにこんな暮らしをさせていたら、いずれ問題を起こす子になる	1	2	3	4	1
2. 女性が1人で子育てを背負うことが困難な社会の中、母親は生活する為に精一杯がんばっている	1	2	3	4	2
3. 離婚など家庭を保てなかったことで起こる問題は親の責任だ	1	2	3	4	3
4. 子どもは、親以外にも自分と関わってくれる誰かを求めている	1	2	3	4	4
5. 子どもを育てられないなら、産むべきではない	1	2	3	4	5
地域の関わりについて					
6. 地域の人たちが、我が子かどうかに関わらず、見守る目や実際に支える手となって気にかけてくれることが、子どもの育ちを支える	1	2	3	4	6
7. 母親を責めるよりも、母親が置かれている現状や抱えている問題を一緒に考えたい	1	2	3	4	7
8. トラブルを抱えた子とつき合うのはなるべく避けたい	1	2	3	4	8
9. トラブルを抱えている親子を自分とは無関係だと思いついておくことは、見殺しにするのと同じことだ	1	2	3	4	9
虐待について					
10. ネグレクト(育児放棄による虐待)が疑われるので専門家に任せるべきだ	1	2	3	4	10
11. 虐待をしてしまう気持ちを他人事と思えない	1	2	3	4	11
12. 虐待は個人の問題ではなく、社会全体の問題がひとりの子どもと母親・父親に集中した結果起こったものだ	1	2	3	4	12
13. どんな母親でも「子どもを虐待したくない」と思っている	1	2	3	4	13
14. 子ども虐待の報道には、父親の姿の見えないものが多い	1	2	3	4	14

アンケートは次のページに続きます。

F) 子育て支援について

あてはまる番号に をつけてください。

その立場の人にしか答えられないような質問には「もし自分が だったら」と考えてお答えください。

- 問1 あなたの子育てを国や世の中が応援していると実感できますか？
(1. はい 2. いいえ)
- 問2 国や行政の行っている子育て情報や子育て支援は、必要なところに届いていると思いますか？
(1. はい 2. いいえ)
- 問3 あなた自らが、子育て支援の場での企画・運営に関わる機会がありますか？
(1. はい 2. いいえ)
- 問4 あなたは、どのような子育て支援に関わりたいですか (複数回答可)
1. サークルなど、子育ての仲間づくりの場
 2. 子どもを預かる保育ボランティア
 3. イベントや催しづくり
 4. 子育て情報誌づくり
 5. 子育て談話室などの、自分の気持ちや子育てのことを話せる場
 6. 子どもの気持ちを理解し、豊かな関係をつくるための講座
 7. 子どもの成長や発達の知識が学べる講座
 8. その他()
 9. 関わりたくない
- 問5 あなたは、どのような「子育てネットワーク」があつたらいいと思いますか (複数回答可)
1. 母親たちでつくるネットワーク
 2. 父親たちでつくるネットワーク
 3. 母親・父親たちでつくるネットワーク
 4. 子育て支援をする人たちでつくるネットワーク
 5. 行政と専門職が中心になったネットワーク
 6. 幼児と高齢者の世代間交流ができるネットワーク
 7. 学齢期や思春期の子どもたちを支えるネットワーク
 8. 子育ての当事者から始まり、誰もが参加できる「みんなで子育て」に向けたネットワーク
 9. 子育てに始まって一生を通じて、ひとりひとりの可能性を大切に作るネットワーク
 10. その他()
 11. 必要ない



G) 自由記述

アンケートに回答して思ったことを、自由にお書き下さい。

ご回答ありがとうございました